

特集

薬物治療のエビデンスを散歩する おさらい&アップデート

特集にあたって

魚豊^{うおと}氏による漫画作品『チ。—地球の運動について—』をご存じだろうか。同作では、15世紀欧州をモデルにした架空の世界を舞台に、地動説を追い求める者たちの物語が描かれている。教会の権威に支配された社会において、地動説は教義に反する思想であり、研究するだけでも異端者として重い刑罰を受けるという物語の設定は、史実における地動説とキリスト教の歴史的対立を彷彿とさせる。

物語の登場人物たちは、命を懸けて「地球が動いている」という科学モデル、つまり仮説を探究しようとする。しかし、その探求の動機は必ずしも観測事実と地動説の理論が一致していたからではない。実際、提唱された当初の地動説は、天動説よりも観測の精度が劣っていた。それでも地動説が科学的だと考えられた理由は、天動説と比べてより簡潔で予測力のある理論体系として進化する可能性を秘めていたからである。

薬理学に基づく薬物治療の考え方や、病態生理学に基づく疾病の発症メカニズムもまた、薬剤の体内動態や生理学的な反応、疾病の病状経過などを合理的に説明できる仮説である。しかし、仮説は科学の進歩とともに訂正されるものであり、それ自体が最終的な真理ではない。

診療ガイドラインの推奨事項のように、いわゆる標準治療とよばれる医療が、高い科学度を保持していると考えられるのは、臨床的な仮説に対する検

証結果，すなわちエビデンスに裏打ちされているだけでなく，新しいエビデンスが報告されるたびに改訂され続けた治療体系だからである．その意味で，現代の臨床医学は絶えず更新され続ける暫定的かつ動的な知識体系である．

科学的であるとは，既存の仮説に対する反証に開かれ，信念を更新する準備があるという態度である．『チ。―地球の運動について―』の登場人物たちが示唆しているように，科学とは究極の真理を提示する営みではなく，「よりよい問い方」に対する絶え間ない接近にほかならない．

本特集は，2022年から連載している「えびさんぼ」から実臨床で遭遇する頻度の高い疾患やテーマを選び，最新のエビデンスを加えた総集編である．医療者が優先的に読むべきと思われるランダム化比較試験(RCT)を時系列で整理した図は，薬物療法を科学的に俯瞰できる鳥瞰図として読み解くことができるだろう．

薬物療法の考え方においても，一見すると常識的な仮説に対して，反証の契機となるような視座を導入すべきである．そのためには，更新され続けるエビデンスの軌跡を丁寧に紐解いていかねばならない．本特集が，薬物療法に対する科学的な視座を切り開き，広大な「エビデンスの森」を迷うことなく進むことができる指針となれば幸いである．

医療法人社団徳仁会 中野病院 薬局
青島 周一